

橋信次先生という方にお会いしたのが――。

それから毎週、先生の講演を聴きに行くようになったんですね。

六、反省の日々――自分の欠点を知る 自分自身を知る

若い時から、私に会った人は、真面目な事を言っている人だと思っている人が多かった訳です。しかし、先程話しましたように、元来私は、そういうのと全然違う訳ですね。まあ、学生でしたら、落第生ですね。今まで振り返ってみたら、「善い事ですね」という事はないんですね。

ところが、自分では、「私は甲斐性がある」と、そのように思っていた訳です。

高橋先生にお会いして、いろんな話をされた中に、そういうものが間違いであるということが分かった訳です。

「何が間違いなんだらう」と、そこから私は先生のお話を聴くようになった訳ですね。

先生のお話というのは、決して難しい事じゃないですね。最初の頃聴いていて、「ちよつと待てよ」と思ったんです。それは何故かと言いますと、最初お会いした時に、「欠点を直しなさい。悪い処があるでしょう。あなた、こういう処が悪いですよ」と、言われた訳です。言われて自分を振り返ってみたら、本当にそういう処があるんですね。しかし、まだ分からない。

私は、「人間というものは、其々いろんな欠点を持っている。その欠点を修正するというのは、これは容易な事じゃないな」と思った訳です。

しかし、容易ではないと、そう思っている事は、実は自分でその欠点を修正しよう、直そうという、そういう心が無いからなんですね。

ところが、自分では気が付かないですね。

「それじゃあ、自分でやらなくてはいけない。やるという事は何をやるのであろう？」と考えてみた。――先生は、「反省しなさい」と仰る。

まず、自分で振り返ってみたら、何かこう、思い出なんですね――小さい時はこうで、こういう両親の元で生まれて、こういう環境で、こんな事をした――そればっ

かりが出て来る訳ですよ。

自分は、それが反省だとばかり思っていたんです。それで、こんなになって、自分は惨めな想いをしたとか、得意になったとか……。

で、それをやりながら、毎週先生の話をつづくと黙って聴いていたら、

「反省というものは、思い出しただけじゃダメなんですよ。その中で、その時に必ず相手もいる、物もある。そういうものに対して、自分の心の状態がどうだったか。

相手がいて、自分が話をした時に、その話し方によって、相手がどのように受け取っていたか。自分はどんな言葉を使ったか、どんな態度をしていたか——それをよく振り返ってご覧なさい」

と、そう仰った。

今度はそれを振り返ったんですね。そうしたら、「あつ、私はこういう悪い処があった。相手の心を一つも汲み取らずに、自分勝手に言葉を出していた。あの人は、本当にイヤな想いをしただろうなあ」——そういう事ですね。

そうすると今度は、この厭な想いをさせた自分の欠点というものが、今度は自分の

生活の中で、今、一体どうなっているのかをみてみる。

例えば、一五歳の時にいろんな事をした。やった事や、その心の状態が、今の五〇歳になっている自分には全然出て来ないような気がするけれども、本当に無いのだろうか——。

ところが、よく追求すると、あるわ——これがあるんですね。それに気が付かない。気が付かないということは、人間というものは、自分本位なんです。何でも自分本位なんです。人の事なんか構っちゃいられないですね。自分さえ良ければいいという、そういう気持ちがあるから、それが分からないんです。

人の身になって全然考えていない、自分が全部善いと思っっている訳ですよ。

私達は、反省をしても、その辺のじぶんというものがあつたら、分からないんですよ。やはり、人の身にもなつてご覧なさい。——そういう事ですね。

例えば、「自分はこういう事を話したけれども、それを相手の人が受け取つたらどんなふうになるだろう」と、そのくらいの事は、思えない事はないと思うんですね。

そして今度は、そういう事を毎日振り返ってみる。一日が終わる時に、「私はこの

前、これを修正しようと思っていたけれど、今日一日の中で、それがちゃんと出来ていたかな、いなかったかな」と振り返ってご覧なさい。

ところが、人間というものは、午前中から昼になって、今日の午前中の事を思い出そうと思っても、中々分らないようになっていっているんですね。

それぐらい、忙しいっていいのか、これも勝手というのか、況してや一日となったら、どのくらい覚えているかということですよ。思い出させませんよね。しかしそれじゃあ、もうお終いですね。

忘れている中でも、とにかく一つでもいゝから、自分で摘み出してみようという、そういう気持ちが無いと分からないですね。

私は、実は自分でそういうやり方をしていった訳なんです。そして、どんどん……自分の心の中を振り返っていったんです。

しかしその時に、例えば一ヶ月なら一ヶ月やって見た時に、「私は毎日、一ヶ月間もやったんだから、何かね、変化が出ていゝんじゃないか」と、そうですね……私はそう思った訳ですよ。

ところが、全然変化どころか、何がどうなっているのか、さっぱり分からない訳です。「一体、こんな事やっついていゝのかな」と、今度はこうなるんですね。

実はそれが、自分の心の中の悪い方の考えですね。「止めとけよ、そんなもの」という事ですね。「おまえ、少しくらいね、静かになつて考えたって何にもならないぞ」と、引張る訳ですよ。「あー、もう止めた。こんな事やっつたって、早く寝た方がいいや」と、こうなったらお終い。

まあ、私は幸いにして、そうならなかった訳ですよ。「とにかく、高橋先生という方の仰った事をやってみよう。これは言葉を聴いただけじゃ分からない。これは、自分でやってみなければ、本当か本当でないか分からない。自分がやらなければ分からないんだ」と、そう思っただけです。そうして、いろんな事を始めていった訳ですね。そして、これも私の心の中に、「神仏というものの、神様ってどんな格好をしているのかな、どんな声を出すのかな、どんな事をするんだろう」と、こういう事もこれに付随してくる訳ですね。

で、今度は先生の話をやって、反省をし、また話を聴いていると、

「神仏というものは、我々のこの五官ごかんでは絶対ぜつたいに捉えとらられない。姿すがたも見る事が出来ない。声も聴く事が出来ない」

と、高橋先生が仰る。——中々なかなか分からないですね。

それからもう遮しや二無む二にいろんな事をやっていった訳です。

次回に続く——次回更新予定は、二月中旬頃です。